

2019年も早くも半ばに入りました。もうすぐ自分が4年目の学生になるかと思うと時間の経つはやさに驚くとともに、Ph.D.ディフェンスという最後の難関がすこしずつ見えてきて気が引き締まります。今回は、Ph.D.プログラムを丸3年やってきて学んできた「Ph.D.中の姿勢」のことで、正直もっと早く気づいていたかったなあ、という自分にとって有意義だったことをまとめてみました。是非いまPh.D.プログラムにいる学生さん、もしくはこれからPh.D.を始める学生さんに共有できたらと思います。

研究面では、プロジェクトが順調に進みそろそろデータをまとめ始めよう、としているところです。データのまとめ&論文執筆にもだいぶ慣れてきて、膨大な量のデータを放置しておくで痛い目に合うということを身をもって知り、整理が大の苦手な自分もそれなりにきちんとまとめて保存しておくことができるようになりました。学年も上がってくると、自分の研究だけではなく、前のプロジェクトの論文データや次のプロジェクトのアイデア出し(プロポーザル書き)、ティーチングの資料など複数のプロジェクトを頭の中で並行させなくてはいけない機会がグンと増えました。そんな時にきちんと整理できることは同時に頭を整理できることにもつながるので、整理整頓はかなりお勧めします。

他に上の学年になって変わった事としては、同僚にプロジェクトの相談をされることが増えました。また、自分の研究とは少し違うエリアの論文のレビューを頼まれることもあります。頼りにされることはありがたいし嬉しいですが、あまりいいレスポンスができない時もあり改めて自分の力不足を実感します。上の学年になると自分のフィールドはもちろん、新しいフィールドを食欲に学んでいくことも大切だと感じました。特にプロポーザルを書くときなどは非常にこの視点が大切だと考えています。自分が得意としている分野に新しい分野を取り入れるととても良いプロポーザルが出来上がると先輩に教えてもらった事と、現在のライジングスターと呼ばれる教授陣にどうしてそんなすごいアイデアが思い浮かぶのかを聞いたところ、学生の時点で既にその原型となるものはあり、長年かけてその考えを熟成させてきたという答えを聞いて以来(しかも複数回!)、自分と異なる分野の講演会があったとしても積極的に足を運び、「自分の分野にどうやって取り込めるか?」という事を深く考える時間を取るようになりました。

さらに、近くの研究室の学生さん達とディスカッションをする事は非常にお勧めしたいです。日本にいる時はあまり他のラボとの研究的な交流はなかったのですが、こちらでは頻りにディスカッションをしており、場合によってはコラボレーションになることもあります。はじめは怖がっていたのですが、ある時勇気を出して分からないことを聞きにいったらとても丁寧に教えてもらい、今度は自分がそのノウハウを自身のラボに広めていけるという良い循環もできます。そして、何より自分の中での可能性が大きく広がっていくことを感じました。

まとめると、今までは研究は自分の世界にどっぷり浸かってしまうタイプだったのですが、時には自分の殻から抜け出す時間も必要だという事です。どうしても自分だけでいると盲目になりがちですが、ちょっと周りを見ることで思わぬアイデアが浮かぶことがあります。最後になりましたが、日頃より支援して下さっております船井情報科学振興財団様にご場をお借りして心より御礼申し上げます。